

群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード 33

請求番号	A0384A0G	文書 番号	976	年代	大正 11 年 (1922)
史料名	『大正十年群馬県五大物産統計』				
形態	縦 22 cm×横 28 cm	複製	あり	タペストリー	
備考	「授業で使えるぐんまの資料」に掲載				
史料概要	<p>史料は大正 11 年 (1922) に群馬県内務部から発行された『大正十年群馬県五大物産統計』に記載されているグラフ。五大物産とは米、麦、繭、生糸、織物で、それぞれの生産高 (額) が示されている。この統計から当時の群馬県の主要な農産物が米、麦、繭、主要な工業品が生糸・織物であったことがわかる。</p> <p>米は粳 (うるち) 米・糯 (もち) 米・陸稻の合計で、稲穂の高さで表されている。麦は大麦・裸麦・小麦の合計で、穂の高さで表されている。繭は春蚕 (5・6月) と夏秋蚕 (8・9月) の合計で、蚕の白い繭で表されている。生糸は器械糸・座繰 (ざぐり) 糸・玉糸 (2匹の蚕が一緒に作った繭からつむいだ糸) の合計で、上の糸巻きから垂れた糸の長さで表されている。織物は絹・綿・絹と綿の交織・麻や毛などの交織物の合計で、藤の花の垂れ具合で表されている。</p> <p>第一次世界大戦 (大正 3 年～大正 7 年) 中に生糸と繭の生産額が急上昇しており、これらの産業が大戦景気の影響 (アメリカ向け生糸輸出の増加等) を受けたことがわかる。</p>				
指導要領との関連	<p><中歴> C - (1) - ア - (オ) 第一次世界大戦の背景とその影響</p> <p><日探究> D - (3) - ア - (ア) 第一次世界大戦</p> <p><歴総合> C - (2) - ア - (ア) 日本やアジアの経済成長</p>				
活 用 例					
活用単元	世界経済の変容と日本				
活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大戦景気を学習する導入部分に使用する。 				
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの読み取りを通して、第一次世界大戦前後の群馬の経済状況の変化について時期を区分して理解させる。 				
予想される生徒児童の反応など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色鮮やかなグラフなので、取り組みやすいと思われる。当時の輸出品の主力である生糸の生産額が大戦中は増加し、大戦後は減少する様子から、群馬県経済が世界経済の影響を受けていることを認識できる。 				

大正十年群馬県五大物産統計 (A0384A0G 976) 大正 11 年

